

●ゴールデン1センターを視察して

団員 長野 昌子

ゴールデン1センターはサクラメント市内のダウンタウンに位置し、NBA (National Basketball Association) のチームであるサクラメント・キングスの本拠地として使用されている多目的アリーナである。

1月22日、エリック氏の案内で施設内を視察させていただいた。

建物は2014年に着工し2016年に完成。米国にはグリーンビルディング協会が定める環境に優しい建築を評価するLEED (Leadership in Energy & Environmental Design) プログラムがあり、サーティファイ・シルバー・ゴールド・プラチナの4段階に格付

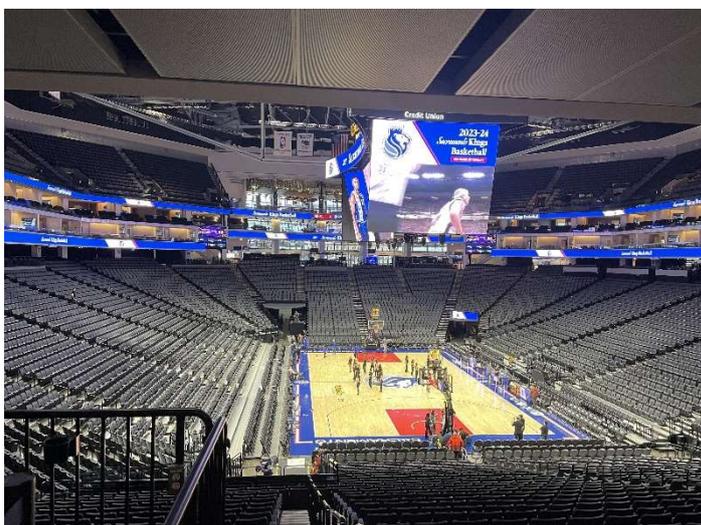


(ゴールデン1センター:外観)

けされる。ゴールデン1センターは屋内スポーツ施設として初めてLEEDプラチナ認証を受けているとのことである。さらにSDGsにも積極的に取り組んでおり、今回の視察事項である『SDGs 関連の取り組み』としての観点からゴールデン1センターについて考察する。

①ゴールデン1センターと言えど何といても建物の屋根に設置された太陽光パネルが特徴である。このパネルで発電した電力と、地元電力会社の太陽光発電所からの送電によりアリーナの使用電力を賄っている。さらには使用水量の削減にも努めているとのことであった。地上階では自然の風からの冷却効果

を取り入れるための引き戸が設けられ、照明はすべてLEDにしている。これらはSDGsの7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、6「安全な水とトイレを世界中に」に関連すると考えられる。



(ゴールデン1センター:アリーナ)

②アリーナは732,000平方フィート(約68,000平方メートル)の広さがあり17,500人収容可能で年間NBAの試合が44試合行われている。それ以外の日はエグゼクティブマネジメントチームの企画で様々なイベントが開催され

ている。イベントの準備に100日、そして実際のイベントは200日開催されているようだ。アリーナを試合以外にも活用することで多くの観光客や地元の住民が集まり周辺エリアの商業活動が活性化する等、ゴールデン1センターが地域経済に寄与し、また雇用機会の創出や地元住民にエンターテインメントとの交流の機会を提供するきっかけにもなることからSDGsの8「働きがいも経済成長も」や11「住み続けられるまちづくりを」に関連すると考えられる。

③アリーナでのイベント中は全ての来場者にWi-Fiが提供されている。アリーナフードではQRコードでの発注ができるようになっており、注文の為の窓口での待ち時



(アリーナフード)



(ICT化されたボトル)

間をなくすといったタイムパフォーマンスが改善されている。アリーナフードで使用する食材は地産地消を目指しており、その90%が半径150マイル以内で作られた物である。現在は当たり前のことになっているが、飲料のペットボトルはリサイクルされている。VIP観覧席にはワイン等のアルコールのボトルが置かれているが、それをグラスに注ぐためにスタッフを呼ぶ必要はない。予め登録しているカードをボトルキャップにかざし、キャッシュレス決済

を行い決済が完了するとボトルキャップのロックが外れグラスに注ぐことができるようになっている。ICT化が身近に使われていることに驚いた。これらはSDGsの9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、2「飢餓をゼロに」、14「海の豊かさを守ろう」に関連すると考えられる。

④ゴールデン1センターは入退室制御をはじめ厳密にセキュリティ対策が実施されている。監視カメラの映像はセキュリティ担当者が監視しており、同時に映像は警察にも送られているため、緊急時には現場と警察が連携して対応ができるようになっている。アリーナから80フィート（約24メートル）内は喫煙禁止となっており喫煙のために屋外へ出るとそのまま退場となる。これらはSDGsの16「平和と公正をすべての人に」、9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、3「すべての人に健康と福祉を」に関連すると考えられる。

○おわりに

ゴールデン1センターのSDGsの取組は太陽光発電が最大の特徴である。

しかし、それだけではなく経済的、社会的、文化的側面からもSDGsに寄与していることを学んだ。

ゴールデン1センターを本拠地とするサクラメント・キングスは昨シーズン17年振りにプレーオフへ出場したということで、サクラメントの人々の間で盛り上がりを見せていた。私たち視察団は残念ながら試合を観戦することができず、直接的に盛り上がりを観ることはできなかったものの、サクラメント市議会議員のリック・ジェニングズ氏がサクラメント・キングスについて熱く語られ、ガイドをしてくださった水島さんたちからも、今までにない盛り上がり様だとお聞きし、普通でないことが容易に想像できた。サクラメント・キングスが試合で勝つと、チームカラーの紫色のビームが夜空に一直線に浮かび上がるのだそう。「今日は試合はないが、明日以降、紫色のビームが天高く上がり皆さんにも見えるかも知れない」とリック氏がガッツポーズで話されていたのが印象的だった。その日から4連勝したとネットニュースで知り、リック氏のガッツポーズが目には浮かんだ。

本市においてもプロスポーツチームが存在しており、スポーツをエンターテインメントととらえ市民が盛り上がるための仕掛けとして、スタジアムやアリーナについてゴールデン1センターから学ぶべき点が多いのではないかと感じた視察であった。